「日々の理科」（第 2297 号）　2020,10,26

「晩秋の上高地紀行（２）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

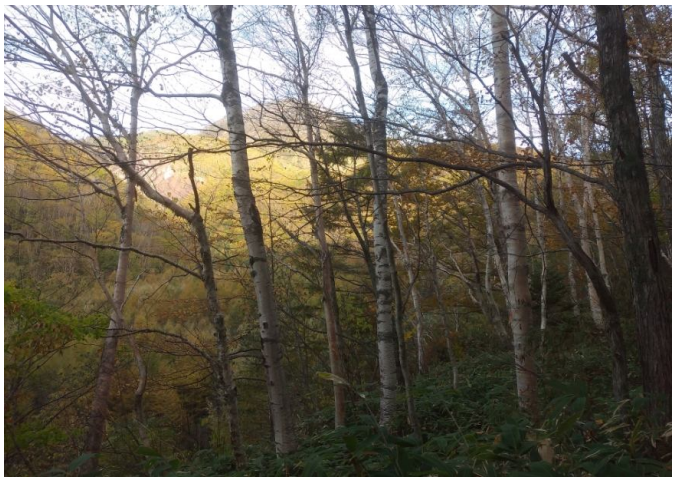
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

釜トンネルの入口（中の湯）から上高地に通じる道路は、今も昔もこの長野県道 24 号線「上高地公園線」しかない。かつては一般車も通行可能で、夏や紅葉シーズンには大渋滞を起こし、排気ガスによる環境問題も深刻だった。当時は釜トンネルも狭く、時間帯を区切って片側交互通行だった。

現在は釜トンネルもその先の上高地トンネルも、二車線舗装され、通りやすくなった。しかも、マイカーは通年規制なので、朝夕など、通る車はほとんどない。自転車にとっては、普通の観光地の道路よりも、むしろ走りやすいくらいだ。

トンネルを過ぎて、上高地中心部へ向かう道は、決して広くはない。カーブのところでバスとバスが出会うと、すれ違いは困難である。しかし、このままでいいような気がする。いかにも国立公園の中の道、という雰囲気を残しているのだ。



時々、白樺の木々の間に「焼岳（やけだけ）」が見えていた。焼岳は北アルプスでは珍しい活火山で、山頂付近から時折噴気があがるのも見ることができる。

しばらく走ると、眼前に穂高連峰が姿を現す。道幅が狭く、バスやタクシーで来た人は「ちょっと停まって！」とは言えないが、自転車なら好きな場所で景色を楽しむことができるのが良い。

ほどなく、大正池のほとりに着く。ここもバス停はなく、徒歩か自転車でないと行きつくことができない。どうやって来たのか、カメラマンが数人、シャッターチャンスを狙っていた。聞くと、上高地の中心部からタクシーで来たのだと教えてくれた。